

自立した学習者を育む

芸術科授業改善

～主体性を引き出し「なぜ学ぶのか」自覚させる工夫～

日々の授業について、授業者自身の課題を入力してください。

例 どのように〇〇するかが授業者としての課題だと考えています

生徒ひとりひとりの習熟度に合わせて目標を設定し課題に取り組み、対話と協働を通して互いに学び教え合いながら課題解決を図り、成果を振り返り次時につなげる仕掛けが重要である。

授業動画を入れてください。
(Googleの共有ドライブの動画URLを貼る)

我が国の伝統音楽「三線実習」まとめ

- ・工工四(くんくんしー)と勘所の振り返り。
- ・「島人(しまんちゅ)ぬ宝」実習と合奏

授業動画(リンク削除)

この授業の中で、授業者自身の課題に関して『授業者の視点』が意識されている場面の動画の時間を入力してください。

例 16:00頃の～の場面が～なので、〇〇という視点を意識して～しています。

全部

授業者への質問を入力してください。

例 05:30頃の〇〇という発問はどのような意図があったのか教えてください(菅原)

- ・秋田で三線実習を行うねらいとは？(阿部)
- ・歌唱指導と楽器演奏指導では、指導プロセスにどのような違いが出てきますか。
(杉田)

質問への回答を入力してください。

例（菅原先生へ）～と言う質問ですが、〇〇でした。

・秋田で三線実習を行うねらいとは？（阿部）

我が国の伝統音楽のなかでも、秋田とは大きく異なる沖縄（琉球）の文化に触れることで、文化の違いや多様性を感じ取り、見つけてほしい。

・歌唱指導と楽器演奏指導では、指導プロセスにどのような違いが出てきますか。
（杉田）

歌唱は聴いて覚え、歌って確認、という流れで、器楽は口ずさみながら動作を確認する、という流れ。

良い点(授業者・学習者)や気づきを入力してください。

例 授業者と生徒との対話によって学びへの関心が高まってよかった(菅原)
学習者同士が主体的に協働して問題解決する場面が見られた(菅原)

- ・生徒自身三線実習に熱中している／分かる人が他の生徒の三線調律している様子あり／フォーム(型)を大事に指導されている(阿部)
- ・生徒が一生懸命練習している／これまでの練習の成果が出ていると感じる／生徒の様子をしっかりを見ながら適切に指導や助言を行っている(小玉)
- ・細かなフェーズに分けて、生徒が「できる」ように支援している。また、よく褒めて、自信をつけさせている。(杉田)
- ・生徒がずっと集中して取り組んでいる。1曲演奏できるようになるための生徒の努力が想像できるし、達成感もあるだろうと思う。(高橋典)

授業者への応援メッセージを入力してください。

この授業に限らない、授業者の良さや可能性に言及してください。

- ・AI時代において、あたたかく素朴な音色が特徴の三線を用いて、「音」をつくったり聞いたり感じたりという経験は、素晴らしい財産になると思います！（阿部）
- ・実際に実物で楽器を演奏することは、ずっと生徒自身の中に残る貴重な体験だと思いました。渉先生がとても丁寧に教えていらっやって、生徒たちもしっかりを指示を守って演奏しているのがよく分かりました。（小玉）
- ・先生自身が演奏者ですので、楽器を弾くことの楽しさを伝えたいというメッセージが伝わります。ピアノの弾き語りができるようになりたいと触発されました。（杉田）
- ・まったく経験したことがない楽器で演奏できるまでに指導するのはとても根気が必要だろうと思いました。生徒にとっては良い経験になったと思います。（高橋典）
- ・少人数の授業の中で各自が集中して目と耳、両手の指の動きをフルに使って作り上げていく様子に驚きます。少しずついい音が響いて、メロディになりつながっていくのに感動します。なかなか触れることもない三線を使って音の響きや情感まで伝わる気がしました。生徒にとって貴重な経験になったでしょうし、そんな生徒のがんばりながら楽しんでいる姿も感じられました。（今泉）

授業者が次に生かしたいことを入力してください。

未経験なことに取り組み始めるには一歩踏み出す勇気が必要であるが、どんな名人手でも最初は初心者だったのは紛れもない事実である。できるようになった喜びを自覚するとともに、多様性や独特の文化に触れることで見識を深め、自己の個性を再発見することにつなげたい。

授業視聴や参観、スライドやグループでの対話等を通して得た気づきをどのように自教科で生かせるか、入力してください。

例 ○○という方法で生徒自身が自己のキャリア形成への意識を高めていたので、自教科でも試してみたいと思いました。(菅原)

- ・自教科だからこそというツールをより有効活用して熱中させた授業を心がけたい！学びは「面白い・知りたい・感じたい」という内発的動機をいかに揺さぶれるかがポイントであり、それは探究やキャリアとも大いに関連してくると感じた。外発的動機ばかりに頼らない、内発的動機を刺激する引き出しを増やしていきたい。(阿部)
- ・生徒自身が熱心に取り組めるような題材・場面を設定して、クラスメイトあるいはALT・JTEと英語でのやり取りを楽しめるような授業展開を心がけたい。(小玉)
- ・外国語学習も実技で、楽器演奏に似ています。個人練習する場、リハの設定、発表の場など、適切に設定する必要があることを再認識しました。(杉田)
- ・生徒が授業に集中して取り組む工夫を考えたい。練習すればできるようになるという実感を持たせたい。(高橋典)
- ・さまざまな題材の中から、一人一人の考えやアイデアをもってグループで一つのものを発表する中で工夫していきたいと思います。(今泉)